

令和6年度とよたシニアアカデミー通年コース 文化工芸学科 5月の講座風景

5月の講座は「古典文学へのいざない」と題して2回講座で徒然草をもとにして、人生観・生死観・友情観・恋愛観などについて学びました。『学生の時と違って今のこの年齢だからこそ古典文学のよさを改めて知った』という声が多く聞かれました。また、「豊田の伝統工芸」の講座では、学科のみなさんでバスに乗り、小原和紙の「字漉き」や「小原歌舞伎」の体験、「石畳ふれあい広場」の施設見学に行きました。
新しい仲間と楽しい学びがモットーのシニアアカデミー！仲間との交流も楽しそうです!!



「古典文学へのいざない①② 5月8日・22日（水）」



講師：元公立高校校長 鈴木辰夫氏

日本三大随筆のひとつ「徒然草（作者：卜部兼好）」は、鈴木先生のわかりやすい解説により、時代を超えて現代にも通ずる魅力を持ったもので奥深い古典文学であることを学びました。



【受講生のふりかえりより】 ●徒然草の友人論、男女論、人間関係の在り方を学んだ。具体的には自由で縛られない「心静か」な態度が貫かれている様や、物事を成す人間関係がとても大切であること等を教えて頂いた。兼好の時代にあって、ある事柄に固執するのではなくて、多様な事柄を鋭く考え、まとめられており、現代の私達が心を整理する上での指南書になると感じた。ぜひ徒然草を読んでみたいと思った。 ●先生のお話の中に兼好の考え方、見方を通して私たちに人として生きていく上で大切なことをしっかり伝えて下さる事がよくわかりました。先日徒然草の本を買ってきました。今の私の年齢で読むといろいろと感じることが、若い時とは違ってあると思います。アカデミー、鈴木辰夫先生のお陰で古典に心から触れることができたことに感謝いたします。 ●古典文学の面白さをこの講座で知りました。人の心というのは時代が変わっても変わらないものなんだと…。これからも機会あるごとに古典文学を楽しみたいと思います。最後に先生の講義をもう一度聞きたかったです。（2回では足りなかったです）



「小原和紙すき・歌舞伎体験と石畳ふれあい広場施設見学」5月29日（水）」

【ご協力頂きありがとうございました】

小原和紙工芸体験館・小原和紙美術館・小原交流館・小原歌舞伎伝承館
小原歌舞伎保存会・石畳ふれあい広場 藤岡石畳地区地域づくり協議会



【受講生のふりかえりより】 ●小原和紙工芸、小原歌舞伎、紙すきも体験できました。伝統、歴史を保存会の皆様が継承され大事に保存されている事は素晴らしいと思いました。 ●和紙美術館は初めてで、良い作品が見えて良かったです。小原歌舞伎伝承館、石畳ふれあい広場等はこの機会であれば絶対に行かない場所であり、貴重な体験ができてとても良かったです。 ●小原和紙で卒業証書を作っているのは子どもたちにとってとても良い文化の伝承だと思った。字すきは簡単なようで一発勝負なので実は難しい。歌舞伎は東京の歌舞伎座より親しみが持てて楽しかった。 ●次は本物の小原歌舞伎や、歌舞伎そのものを見たいと思いました。 ●小原地区で伝統を大切に、継承への努力していることを、改めて深く知る機会でもありました。 ●小原和紙の里での紙漉き体験をドキドキしながら木杵を揺らし、字を書き終えホットする。歌舞伎伝承館では見得を切る人におひねりを投げ、石畳の足湯ではほっこりとした気持ちになり、身近なところにとっても立派な文化を体験できるところがあり、豊田市民はとても恵まれていると実感しました。アカデミー受講生の白浪五人男は舞台の5人の方々には拍手です。「1度で3回おいしい」一日でした。 ●和紙字すきの完成後、全作品を展示しての合評会が楽しかった。「話」「心」「柔」「晴」「光」「寿」など皆様の個性とお人柄がうかがえました。 ●紙すきで字を書き、皆さんの作品を並べてみた時、それぞれの思い出を聞いたりして素敵だなと思いました。